岩盤ボーリング柱状図

調査名　一級河川　太田川水系　東福田４支外　砂防激甚災害対策特別緊急事業に伴う業務委託

事業・工事名

調査目的及び調査対象　砂防　ダム・溜池

ボーリング名	東福田4支Bor.1	調査位置	東福田4支　NO.0 R17.1m	北緯	34° 26′ 44.3453″
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	令和2年12月 4日～ 令和2年12月 4日	東経	132° 32′ 43.9968″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 183.58m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	6.00m	地盤勾配	38° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：D-0B（東邦地下工機） エンジン：NFAD8（ヤンマー）　ポンプ：BG-3B（東邦地下工機）

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率（%）／最大コア長（cm）／RQD（%）	記事	孔内水位／測定月日
1	182.33	1.25	50 G	礫混じり粘土質砂	褐	w5	h4	E	Ⅵ	d	D	CL 0 [100]	上部0.1m程度、腐植土を含む。砂分は細～中砂を主体とし、全体に粘土分を混入する。φ10～30mmの角～亜角礫を10%程度混入する。GL-0.4m付近、木根を含む。	
2	181.48	2.10	+ Gr +	風化花崗岩	淡灰褐	w4	h1	E	Ⅵ	d	DM	CL 0 [100]	（中粒黒雲母花崗岩）岩組織を明瞭に残すものの岩芯まで風化進行し、コアは土棒状で採取できるがハンマー打で容易に砕け砂状となる。長石類の殆どは粉末状に風化する。DM級岩盤に分類出来る。	
3	179.78	3.80	+ Gr +	花崗岩	灰褐	w4	h1	D	Ⅳ	c	CL	15 [15] [100]	コア形状を残して採取できるがヘアクラックが発達し、コアはハンマー打で容易に砕け礫～岩片状となる。コア肌は粗い。CL級岩盤に分類出来る。	
4			+ Gr +	花崗岩	橙	w3	h1	C	Ⅲ	c	CM	15 [15] [100]		
5						w4	h1	D	Ⅲ	c	CL	15 [37] [100]		
6	177.58	6.00				w3	h1	C	Ⅲ	c	CM	15 [50] [100]	岩質はやや硬質となり、コアは短柱状主体で採取できる。ハンマー打では金属音を発する。コア肌は全体に粗い。GL-4.3m付近、亀裂面沿いに酸化が見られる。GL-4.6m～5.2m間、ヘアクラックが発達する。ハンマー打で濁音を発する。GL-5.7m付近から比較的新鮮となり、コア肌は滑らかとなる。CL～CM級岩盤に分類出来る。	
7														
8														
9														
10														
11														

標準貫入試験

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
50	1.15	50 / 300		300
50gt上	1.45			
	2.00	50 / 50	50	
50gt上	2.05			
	3.00	50 / 0	0	

原位置試験　室内試験

削孔状況

削孔月日	削孔速度（cm/h）	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧（MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	削水・送水量（L/min）	排水量（L/min）
12/4	400	66/ケーシング	シングル/ビット	300	50	0	W1/0	0
		66	ダブル/ビット	250	50	3	W2/20	18
	200		ダブル/DC	150	150	4	W2/10	9
				200	150	4	W3/10	9
	150			200	150	4	W3/10	9
	120			250	150	4	W3/10	9